

授業科目(ナンバリング)	認知症の理解Ⅱ (DA215) (実践的教育科目)			担当教員	大町 いづみ (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の類型
認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。認知症に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。							①⑨⑩
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	脳の機能や高齢者の心理についての理解が深めることができる。 認知症に付随する身体症状や介護についての視点を身につけることができる。				筆記試験 授業態度・取組	50% 10%	
情報収集、 分析力	認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、 その人の特性を踏まえたアセスメントを行うことができる。 認知症や高齢者に関する医療や制度の理解を深めることができる。				授業態度・取組 授業内レポート	5% 10%	
コミュニケーション力	認知症の病態を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を 理解することができる。 家族支援、インフォーマル等の地域資源を活かす視点を身につける ことができる。				授業内レポート	10%	
協働・課題解決 力	認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や 介護力に応じた支援ができる。				授業態度・取組 授業内レポート	5% 10%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
「定期試験」(50%)は筆記試験で行う。「授業内レポート」(30%)は、随時授業中に課した課題を評価する。 「授業態度・取組み」(20%)は、授業中の態度、意見、取組み等を評価し、フィードバックし学生と共有し総合的に 判断する。							
授 業 の 概 要							
保健所、病院、訪問看護での業務経験を持つ教員が担当し、現場実践を活かし、認知症(若年性の認知症も含む) の人に対する対応や支援、その家族に対する支援について学ぶ。認知症が及ぼす生活への影響、生活上の障害への対 応についてグループで具体的に考えていく。さらに、今日の認知症を取り巻く様々な状況や課題を把握し、認知症の 人とその家族を支える地域社会のあり方等についても学んでいく。なお、授業においては、グループワークによる議 論やプレゼンテーションを行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：最新 介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 中央法規 介護福祉士養成講座編集委員会編 参考書：特に指定しない 指定図書：介護福祉士国家試験 受験ワークブック 2022 中央法規							
授業外における学修及び学生に期待すること							
専門職として認知症の人やその家族を支援することを常にイメージしながら授業に参加してほしい。認知症ケアの問 題は、介護福祉士だけではなく、社会福祉士や精神保健福祉士にとっても最重要課題であると認識し、新聞やニュー スで取り上げられる事柄に対して、常に関心を持つことを期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	認知症の症状・特徴の再確認	認知症の疾患による特徴や、認知症の症状等、前期に学習したことを確認していく。	予習：シラバスを読み、本教科の内容を理解する。 復習：生活障害をADLを中心に整理する。
2	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①	認知症の人の日常生活がスムーズに運ぶよう、認知症の人の特性を踏まえたアセスメントを学ぶ。家族や認知症の人の残存能力から、可能性も考えていく。	予習：BPSDの背景を考えてくる認知症の可能性について復習。
3	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア②	認知症の人の日常生活がスムーズに運ぶよう、人間関係、居住環境など環境変化が認知症に与える影響について学び、生活環境も考慮したアセスメントを考えていく。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：認知症の生活環境についてと、アセスメントを整理する。
4	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①	食事に関して認知症の人が困難なこと、また食事での生活障害とその支援を考えていく。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：食事へのケア、排泄での問題を整理。
5	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア②	排泄に関して認知症の人が困難なこと、また排泄での生活障害とその支援を考えていく。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：排泄ケア・入浴ケアについて整理する。
6	若年性認知症の理解①	若年性認知症の現状と、若年性認知症の疾患やその症状、特徴について学ぶ。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：若年性認知症の疾患とその特徴。
7	若年性認知症の理解②	若年性認知症の人と家族が直面している状況、若年性認知症の人が置かれているライフステージの特徴を理解し、高齢者とは異なる問題や障害について学ぶ。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：若年性認知症の問題や障害を整理する。
8	若年性認知症の理解③	若年性認知症の人とその家族に特徴的な心理や行動と、その支援（施策等も含む）について学ぶ。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：若年性認知症の生活支援について。
9	家族への支援①	認知症の人を抱える家族の、認知症の受容の過程について学び、認知症の理解と、家族関係の大切さを理解する。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：認知症の家族支援を整理する。
10	家族への支援②	認知症の家族の心理を理解し、受容の過程に合った援助を考える。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：家族への援助、レスパイトケアについて。
11	家族への支援③	家族の介護力の評価やレスパイトについて学び、地域のサポート体制の必要性を理解する。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：地域のサポート体制、近隣の状況。
12	連携と協働①	認知症に関する行政の方針や施策として、認知症高齢者支援対策の概要について学ぶ。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：認知症高齢者支援対策について。
13	連携と協働②	地域包括支援センターの役割や機能を理解し、認知症高齢者とその家族への関わりや、小規模多機能型居宅介護やグループホームの役割や連携についても考える。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：認知症と地域の社会資源と、効果的活用の可能性を考える。
14	連携と協働③	認知症の人が地域で生活を続けていけるような、コミュニティづくり、町づくりを考える。同時に、それを支える地域住民の理解と支援について学ぶ。	予習：本テーマの教科書を読む。復習：介護福祉士が果たす地域での役割についてまとめる。
15	まとめ	今後増加する認知症高齢者を始めとして、認知症の人の尊厳を守るケアについて考え、発表する。	予習：本テーマの教科書を読む。本テーマの予習。 復習：自身が抱える認知症ケアの課題を整理する。
16	定期試験		